

日米投信週次概況(2023年1月11日週)

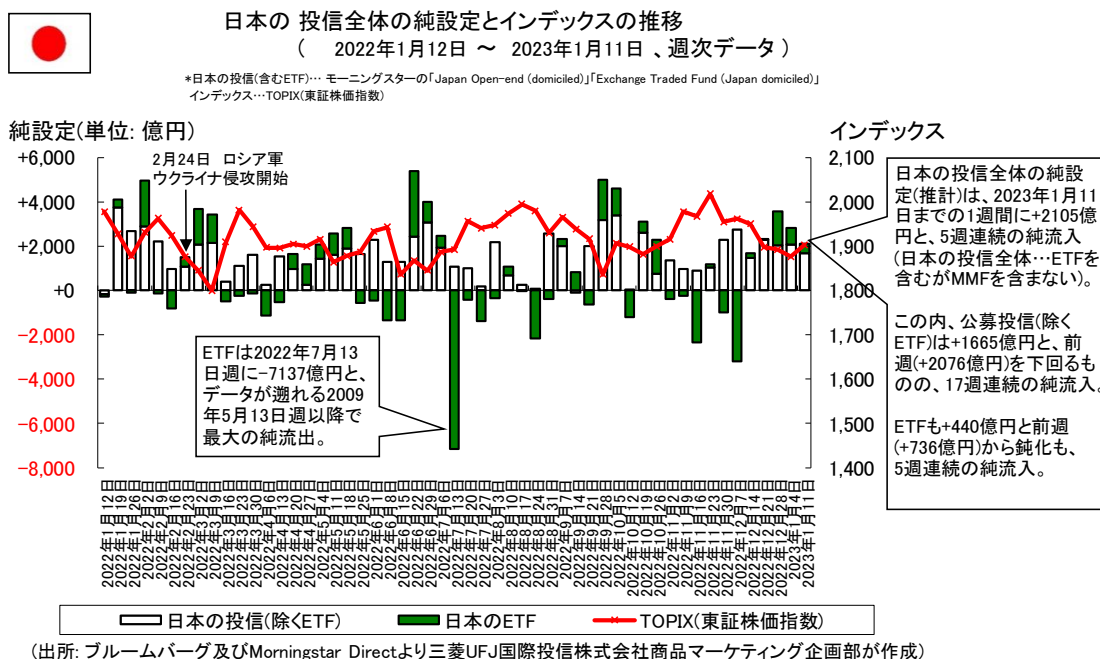
日本では、つみたてNISA対象の米国株式などのインデックスファンドが人気！
 米国では、利回り上昇から投資適格社債、ハイイールド社債が人気化!!

三菱UFJ国際投信株式会社 商品マーケティング企画部 松尾健治 (kenji-matsuo@am.mufg.jp)
 窪田真美 (mamii-kubota@am.mufg.jp)

- 日本では、つみたてNISA対象の米国株式などのインデックスファンドが人気！ p.1
- 米国では、利回り上昇から投資適格社債、ハイイールド社債が人気化!! p.2

●日本では、つみたてNISA対象の米国株式などのインデックスファンドが人気！

モーニングスター・ダイレクト/Morningstar Directによると、日本の投信全体の純設定(推計)は2023年1月11日までの1週間に+2105億円と、5週連続の純流入(日本の投信全体…ETFを含むがMMFを含まない)。この内、公募投信(除くETF)は+1665億円と、前週(+2076億円)を下回るものの、17週連続の純流入。ETFも+440億円と前週(+736億円)から鈍化も、5週連続の純流入となった。



公募投信(除くETF)について、最新1月11日週の分類別純流出入(モーニングスター分類による全92分類の上位10分類と下位10分類)で見た。純流入1～3位は北米株、グローバル株、日本株大型ブレンド。米国株、世界株、日経225連動インデックスの人気が継続。モーニングスターは「先週の流入額上位5ファンドが新規ランクイン、10ファンド中4ファンドが米国株式インデックスファンド」(2023年1月16日付モーニングスター・ファンドニュース～ https://www.morningstar.co.jp/market/2023/0116/fund_01911.html)と報じている。2022年の資金フローで目立った「つみたてNISA対象のインデックスファンド(米国株式など)への資金流入が加速した。」(2023年1月11日付モーニングスター・ファンドニュース～ https://www.morningstar.co.jp/market/2023/0111/fund_01906.html)が2023年も継続している可能性が高い。

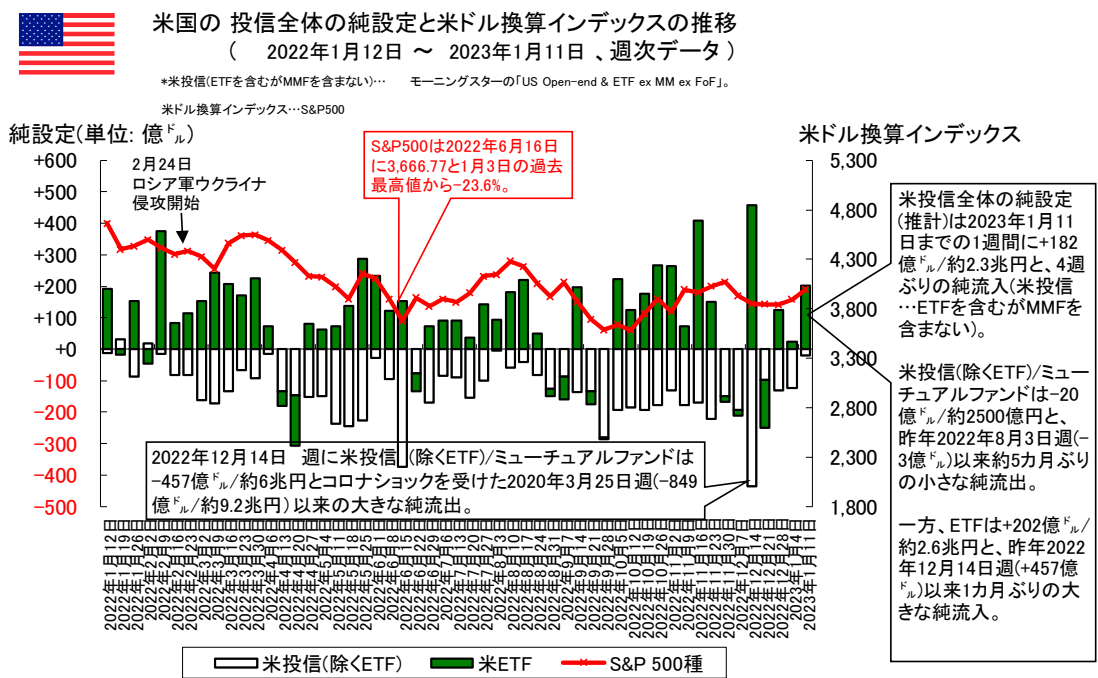
● 日本の投信の分類別週間純流出(純流入の大きい順) 2023-01-11現在
 *ETF・MMFを含まない。週次推計の為、月次のものとは異なる。

順位	分類名 (Morningstar Categories)	純流入 最新週 (百万円)	純流入 前週 (百万円)	純流入 4週計 (百万円)	純資産 (百万円)	備考 (和訳は三菱UFJ国際投信商品マーケティング企画部)
1	North America Equity	+59,868	+36,395	+173,268	9,184,012	北米株
2	World Equity	+35,561	+25,317	+79,577	14,779,757	グローバル株
3	Japan Large-Cap Blend Equity	+29,418	+25,813	+203,128	5,910,296	日本株大型ブレンド
4	World ex-Japan Equity	+12,669	+29,357	+72,342	6,002,915	グローバル株-日本を除く
5	Trading - Leveraged/Inverse Equity	+6,295	+4,531	+39,631	400,569	トレーディングレバレッジド/インバース株
6	World Bond	+6,051	+1,790	+11,379	1,120,712	グローバル債
7	Japan REIT	+5,701	+3,490	+29,917	2,649,180	日本REIT
8	US REIT	+5,055	+3,796	+20,478	2,111,143	米国REIT
9	Moderately Aggressive Allocation	+4,938	+11,022	+34,679	2,637,161	モデレート・アグレッシブ・アセットアロケーション
10	Moderate Allocation	+3,565	+6,222	+20,708	2,275,751	モデレート・アセットアロケーション
83	Japan Large-Cap Growth Equity	-650	+1,018	+1,364	1,048,973	日本株大型グロース
84	Japan Bond - Short Term - Bond IT	-842	-608	-389	522,837	日本債-短期-公社債
85	Japan Money Market	-1,036	-606	-8,214	32,746	日本マネー
86	World ex-Japan Bond - JPY Hedged	-1,269	+678	+2,816	1,274,875	グローバル債-日本を除く-円ヘッジ
87	Conservative Allocation	-2,035	+4,345	+6,061	2,156,912	コンサバティブ・アセットアロケーション
88	Japan Bond Long/Intermediate	-2,106	-1,057	+281	3,474,239	日本中長期債
89	World Hybrid Security - Other	-2,138	-1,001	-4,414	343,733	グローバル・ハイブリッド証券-その他
90	World ex-Japan Bond	-3,318	+5,552	+7,577	2,261,967	グローバル債-日本を除く
91	Commodity	-5,580	+1,783	-2,237	481,494	商品
92	Tactical Allocation	-6,118	-613	-18,123	1,327,479	タクティカル・アロケーション
全92分類の合計		+166,542	+207,593	+807,045	84,893,165	
指数名	リターン※ 最新週 (%)	リターン※ 前週 (%)	リターン※ 4週 (%)			
TOPIX (東証株価指数)	+1.77	-1.98	-3.69			
S&P500	+3.07	+1.87	-0.53			
MSCI ワールド	+2.94	+1.95	-0.05			

(出所: プルームバーグ、Morningstar Directより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)
 ※現地通貨(MSCI ワールドは米ドル)ベース、配当込み指数。

●米国では、利回り上昇から投資適格社債、ハイイールド社債が人気化!!

モーニングスター・ダイレクト/Morningstar Directによると、米投信全体の純設定(推計)は2023年1月11日までの1週間に+182億ドル/約2.3兆円と、4週ぶりの純流入(米投信…ETFを含むがMMFを含まない)。米投信(除くETF)/ミューチュアルファンドは-20億ドル/約2500億円と、昨年2022年8月3日週(-3億ドル)以来約5か月ぶりの小さな純流出。一方、ETFは+202億ドル/約2.6兆円と3週連続の純流入で、昨年2022年12月14日週(+457億ドル)以来1か月ぶりの大きな純流入。



(出所: プルームバーグ及びMorningstar Directより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

米投信全体の2023年1月11日まで1週間純設定額の分類を見る。大分類では、米国株ファンドが-2980万ドルと、純流出が前週(-67億ドル)から急減速。**債券は+130億ドルと2週連続の純流入で2022年8月以来5か月ぶりの大きな純流入**。外国株は+41億ドル、非伝統的株式は+5.7億ドル、コモディティは+1.4億ドルの純流入。より投資対象を細かく見る。米投信(含むETF、除くMMF)の分類別純流出入は下記の通り(モーニングスター分類による全120分類の上位10分類と下位10分類)。**純流入1~3位は米国大型ブレンド株(S&P500連動など)、社債、米国ハイイールド債**。**純流出1~3位は米国大型グロース株、米国超短期債、米国テクノロジー株**。

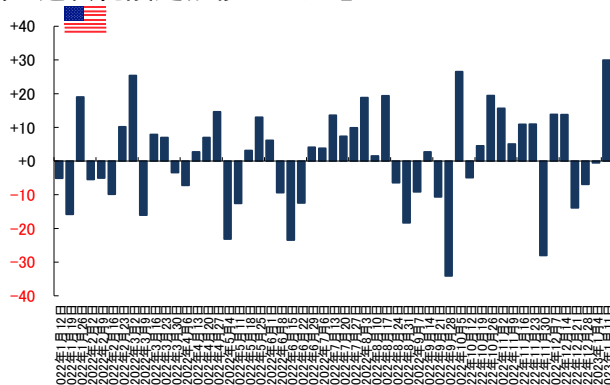
米投信の分類別週間純流出入(純流入の大きい順) 2023-01-11現在
 *ETFを含むがMMFを含まない。週次推計の為、月次のものとは異なる。★は注目の分類。

順位	分類名 (Morningstar Categories)	純流入 最新週 (百万ドル)	純流入 前週 (百万ドル)	純流入 4週計 (百万ドル)	純資産 (百万ドル)	備考 (和訳は三菱UFJ国際投信商品マーケティング企画部)
1	Large Blend	+3,110	-4,582	-7,109	2,795,620	米国大型ブレンド株(S&P500連動など)
2	Corporate Bond	+2,993	-55	+863	139,416	社債
3	High Yield Bond	+2,340	-1,609	-2,257	245,556	★米国ハイイールド債
4	Diversified Emerging Mkts	+2,178	-709	+876	504,530	★グローバル・エマージング株
5	Intermediate Core Bond	+2,018	+982	+5,109	531,421	米国中長期コア債
6	Long Government	+1,692	+563	+1,699	79,322	★米国長期国債(6年超)
7	Industrials	+1,174	-150	+622	27,109	農業・インフラ・輸送等
8	Muni National Intern	+1,022	-311	-1,154	210,925	米国全米地方債
9	Short-Term Bond	+979	-443	-640	360,318	米国短期債
10	Trading--Inverse Equity	+896	+123	+496	20,102	トレーディングインバース株式(ペア型)
111	Allocation--50% to 70% Equity	-306	-529	-1,625	342,360	アロケーション50~70%株式
112	Equity Energy	-332	-217	+97	71,616	★エネルギー株(非MLP)
113	Bank Loan	-341	-95	-2,636	73,210	★米国バンクローン
114	Mid-Cap Growth	-368	-845	-2,590	311,199	米国中型グロース株
115	Large Value	-484	+1,216	+8,269	1,218,243	米国大型バリュー株
116	Small Blend	-596	-343	-2,690	361,040	米国小型ブレンド株
117	Trading--Leveraged Equity	-744	-19	+534	44,821	トレーディングレバレッジ株式(ブル型)
118	Technology	-963	-738	-2,539	183,125	★米国テクノロジー株
119	Ultrashort Bond	-1,349	+3,662	+4,369	262,543	米国超短期債
120	Large Growth	-1,518	-1,914	-5,569	1,247,076	米国大型グロース株
全120分類の合計		+18,203	-10,123	-17,650	15,243,773	
指数名		リターン※ 最新週 (%)	リターン※ 前週 (%)	リターン※ 4週 (%)		
TOPIX (東証株価指数)		+1.77	-1.98	-3.69		
S&P500		+3.07	+1.87	-0.53		
MSCI ワールド		+2.94	+1.95	-0.05		

(出所: ブルームバーグ、Morningstar Directより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)
 ※現地通貨(MSCI ワールドは米ドルベース、配当込み指数)

純流入2位の社債について見る。**社債ファンド(含むETF)の純設定(推計)は、最新2023年1月11日週に+30億ドル/約3830億円と、4週ぶりの純流入で2020年6月24日週(+31億ドル)以来2年半強ぶりの大きな純流入**(←前週1月4日週に-5500万ドル/約72億円と全120分類中75位)。内、社債投信(除くETF)/ミューチュアルファンドは+3億ドルと2週連続の純流入、社債ETFは+27億ドルと4週ぶりの純流入。

【社債ファンドの過去1年間の週次純設定推移(単位億ドル)】

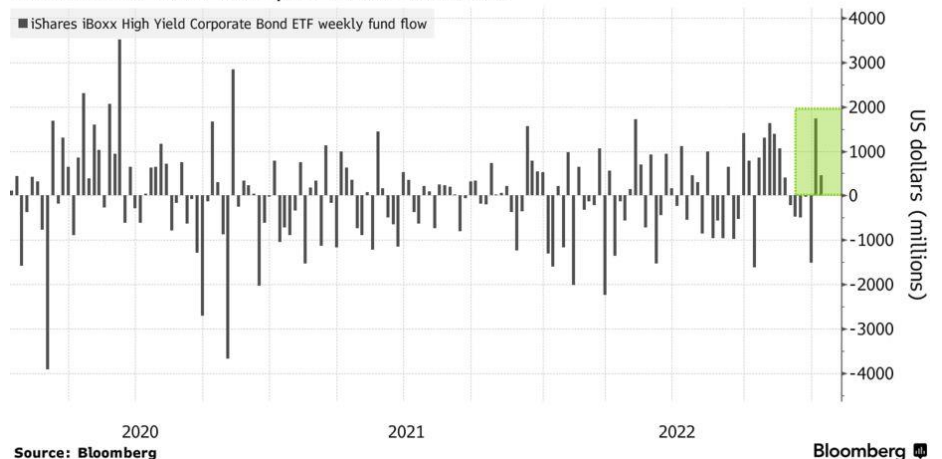


(出所: Morningstar Directより三菱UFJ国際投信株式会社商品マーケティング企画部が作成)

前週1月4日週に-16億ドルと120位中118位だったハイイールド債も、最新週は+23億ドルと、社債ファンドに次ぐ純設定で120分類中3位となっている。

2023年1月12日付ブルームバーグ/Bloombergは「ウォール街は2023年のジャンク債について警鐘を鳴らしているが、投資家はジャンク債上場投資信託(ETF)に押し寄せている。ブルームバーグのデータによると、この1週間に債券ETFには約110億ドル(約1兆4500億円)の資金が流入したが、流入額が最も多かったのはiシェアーズiBoxxハイイールド社債ETF(HYG)で16億ドルだった。高利回り債を巡っては、米当局の金融引き締めで米経済がリセッション(景気後退)に陥れば痛手を受けるとの警告が増えているにもかかわらず、投資意欲は強まっている。景気が悪化すれば格下げやデフォルト(債務不履行)が相次ぎリスクプレミアムは上昇する恐れがある。だが利回りがこの10年の最高水準付近で推移しており抵抗しがたい、クレジットサイトは分析する。同社のシニア債券ストラテジスト、ザカリー・グリフィス氏はブルームバーグテレビジョンの番組で『敬遠するには利回りが高過ぎる』とし、『12%程度のリターンが得られる可能性があるだけに高利回り債は魅力的な投資先だ。景気の面でもわれわれは比較的楽観的であり、これは当社が方針を決める上で非常に重要だ』と指摘した。」(2023年1月12日付Bloomberg「ジャンク債ETFに投資家が殺到ーウォール街から相次ぐ警告でも」～ <https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2023-01-12/ROCRXST0G1KW01>)と報じている。

Junk Bond ETF Posts Biggest Inflow Since 2020 HYG absorbs more than \$1.7 billion last week



ンク債ETFに投資家が殺到ーウォール街から相次ぐ警告でも」～ <https://www.bloomberg.co.jp/news/articles/2023-01-12/ROCRXST0G1KW01>)と報じている。

また、2023年1月9日付フィナンシャル・タイムズ/FTは「世界の債券ETF純流入額は2022年に+2,660億ドルと、2021年の+2,800億ドル、2020年の+2,690億ドルとほぼ一致。…(略)…。2022年前半の債券流入は主に安全な避難所としての取引と考えられた。しかし、2022年後半の債券流入は利回り上昇によるものだった。2022年はトータル・リターンでは債券にとって非常に困難な年だったが、2022年の7～9月に投資適格社債、10～12月にハイイールド社債に需要が広がり、債券ファンドからの記録的流出が回避された。」(下線は当

Corporate bonds bounce back

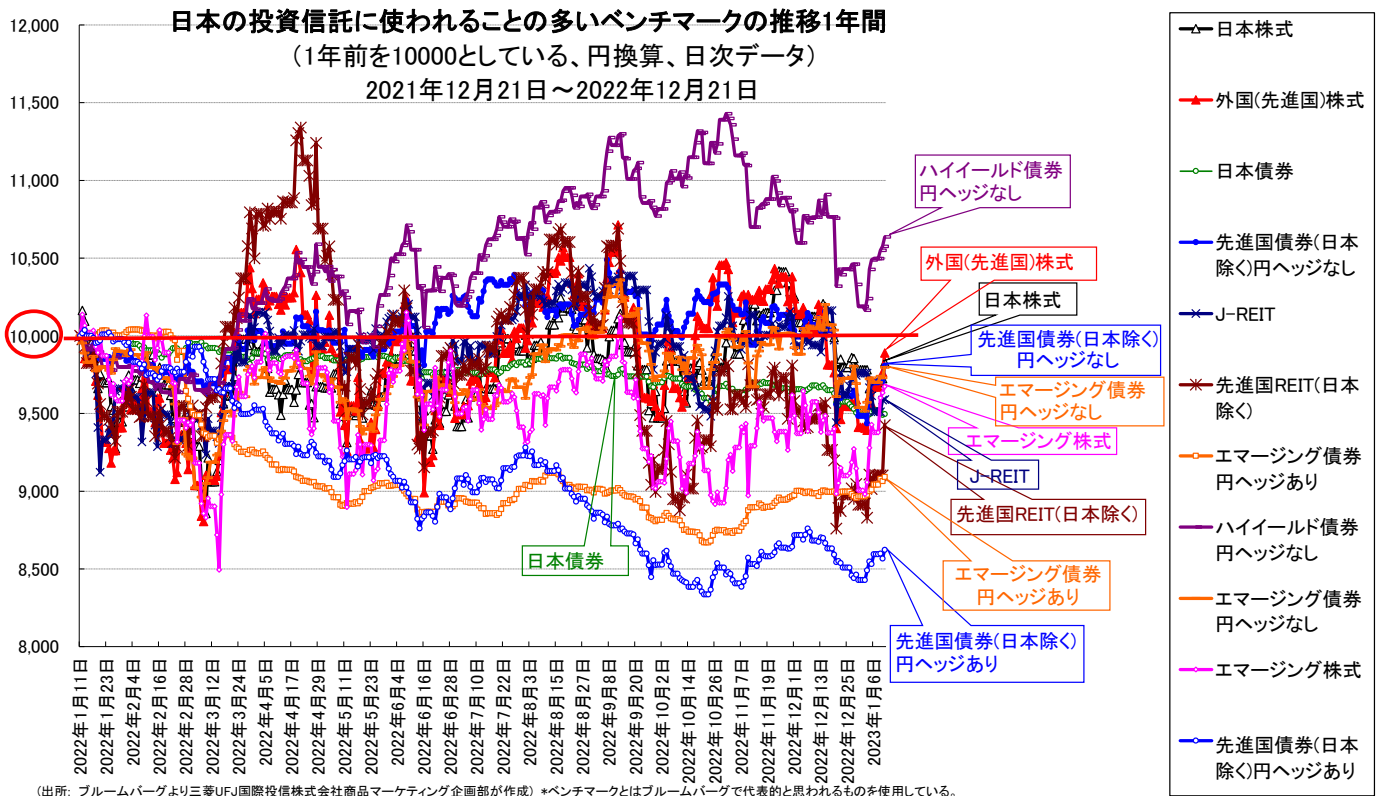
Cumulative net ETF flows (\$bn)

— Investment Grade — High Yield



レポート筆者、2023年1月9日付FT「ETF industry storms through 2022's headwinds」～

<https://www.ft.com/content/81e4105e-1e3d-4728-8223-204e4ecd5721>)と報じている。



以 上

三菱UFJ国際投信株式会社 商品マーケティング企画部 企画グループ

松尾 健治(kenji-matsuo@am.mufg.jp)、

窪田 真美(mami1-kubota@am.mufg.jp)。

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、内外の資産運用に関連する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。本資料は、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本資料中の運用実績等に関するグラフ・数値等はあくまでも過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆様の実質的な投資成果を示すものではありません。市況の変動等により、方針通りの運用が行われない場合もあります。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 投資信託は値動きのある有価証券を投資対象としているため、当該資産の価格変動や為替相場の変動等により基準価額は変動します。従って投資元本が保証されているわけではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
- 投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。
- 投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- クローズド期間のある投資信託は、クローズド期間中は換金の請求を受け付けることができませんのでご注意ください。投資信託は、ご購入時・保有時・ご換金時に手数料等の費用をご負担いただく場合があります。

本資料中で使用している指数について

- TOPIX(東証株価指数)に関する知的財産権その他一切の権利は株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社に帰属します。
- MSCI ワールド インデックスに対する著作権およびその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会